

## 日本ジオパークネットワーク新規加盟認定地域決定

日本ジオパーク委員会

・日本ジオパーク委員会は、以下の5地域を新たに日本ジオパークに認定した。

箱根ジオパーク、下北ジオパーク、筑波山地域ジオパーク、浅間山北麓ジオパーク、鳥海山・飛島ジオパーク

各申請地域の審査結果は下記のとおり。

・なお、箱根ジオパークは既存のジオパークであるが、領域を拡大して新規のジオパークとして認定された。そのため、日本ジオパークは43地域となった。

### ■新たに日本ジオパークに認定された地域の特徴と理由

#### 箱根ジオパーク（神奈川県）：領域拡大を伴う新規認定

箱根ジオパークは、伊豆・小笠原弧が本州弧に衝突したプレート境界域に位置し、その中心である箱根火山が、南北に伸びる天然の障壁をなしている。南足柄市の編入により、より明確で世界的な独自の地球科学的な位置づけを持つようになった。この天然の障壁が多様な文化・歴史を生み、地域の宝となっている。

南足柄市の編入については、前回認定直後から検討を続け、講演会の開催や広報紙でのPR活動など、本格的に準備を進めてきた。南足柄市では、一般市民から募集・養成したジオガイドも誕生している。既存地域についても、認定時の課題を解決しながら着実に発展してきた。箱根ジオミュージアムは、わかりやすい展示と導線づくりを実現している。また、昨年、噴火で、火山活動への関心が高まったことを活かして、地域活動や、火山のもとでの観光、防災教育にもつなげている。以上により日本ジオパークとして認定する。

#### 下北ジオパーク（青森県）

下北ジオパークは、ジュラ紀付加体から日本海拡大期の火山岩類、現在に続く第四紀の火山や地形など多様な地球科学的特徴を有し、それらの性質を反映した自然や文化・信仰が現在も残る地域である。住民はそれらを地域の誇るべき資源として認識している。日本でも有数の観光地で、すでに地球科学的資源を柱にしたツーリズムが行われている。前回の認定見送り後、各種地域団体などが様々な活動を行い、ボトムアップ型の推進体制が構築されてきている。住民のジオパークに期待する声が多く聞かれ、実際にジオパーク商品開発が行われるなど、今後の展開が期待できる。学校教育・社会教育の現場にもジオパークが積極的に取り入れられ、今後、住民を主体とした地域資源の保全と観光及び教育への活用の取り組みが展開されていくものと期待される。以上により日本ジオパークとして認定する。

#### 筑波山地域ジオパーク（茨城県）

筑波山地域ジオパークは、関東平野にそびえる筑波山、関東平野を構成する海成段丘や低地、日本有数の海跡湖である霞ヶ浦に関するジオサイトを多く有する。前回審査において認定見送りとなったことを受けて、地域を代表する景観である関東平野、筑波山、霞ヶ浦を軸とした新しいテーマを構築した。自治体を超えて住民同士が繋がったことで、保全活動がさらに活性化し、日本ジオパークネットワークにおける地域資源保全への貢献も期待される。また、広大な関東平野や筑波山の生い立ちについて考え、日本国内外の平野との相違に気がつくことにより、水害や地震といった災害に頻繁に見舞われる日本の平野で暮らすことを改めて意識できるジオパークとなることも期待される。最

先端の研究機関との連携や研究学園都市住民へのジオパークの浸透が今後さらに進むことで地域資源の学術的価値の向上や、ジオパークで育った子供達が世界に羽ばたきジオパークを広めていくことも期待される。以上により日本ジオパークとして認定する。

### 浅間山北麓ジオパーク（群馬県）

浅間山北麓ジオパークは、浅間山の近年の噴出物が作る地形や噴火災害の遺構などの国際的価値の高いジオサイトを持ち、火山灰土や高原の冷涼さを活かした農畜産物の恵みを有している。夏場人口が住民の5倍にもなる観光地の環境を背景に、火山防災を意識したジオパークの活動が、住民にも受け入れられはじめている。今後日本ジオパークとして展開することによって、日本ジオパークネットワークへの貢献も少なくないと考えられる。大手観光企業との連携も進んでおり、ジオ資源を活用した地域の持続的な発展が期待できる。以上により日本ジオパークとして認定する。

### 鳥海山・飛鳥ジオパーク（山形県、秋田県）

鳥海山・飛鳥ジオパークは、約1500万年前から続く日本海の拡大・形成と、噴火と大規模な山体崩壊を繰り返しながら成長してきた火山がつくりだした、固有の景観と地球科学的価値をもつエリアである。人々は、繰り返される鳥海山の噴火や山崩れ、日本海で発生する地震とそれに誘発される津波に対峙しながらも、鳥海山を敬い、日本海と鳥海山が生み出す水のサイクルを利用し、独自の歴史文化をつくりあげている。鳥海山や飛鳥を愛する多くの地域住民の思いを、県境を越えた行政と学術関係者が支援する体制ができており、ジオパークとしての質を持続的に活かすうえで必要となる十分な推進体制を有している。以上により日本ジオパークとして認定する。

## ■日本ジオパーク認定を見送りとした地域の特徴と理由

### 月山ジオパーク構想（山形県）

月山ジオパーク構想地域は、地域のランドマークである月山が地域の地質や地形、歴史・文化、動植物等すべてに影響を与える地域である。崩壊した月山から流れ出て今も動く大地、崩壊後切り立った西側斜面と日本海からの季節風が生み出す豪雪、出羽丘陵を川が侵食してできた最上峡と「清川だし」がもたらす風力発電、そして出羽三山信仰の聖地ならではの特異な歴史や文化があり、それらが地域住民の意識に根付いている地域である。

月山ならではの資源は多くあり、月山を中心に活動意識は高いが、核となる見どころをどう編集し楽しんでもらうかという戦略が整理されておらず、月山ならではのジオストーリーが十分にできあがっていない。テーマに沿った具体的な戦略・計画が必要である。以上により日本ジオパーク認定は見送りとする。

### 萩ジオパーク構想（山口県）

萩ジオパーク構想地域は、山口県萩市と阿武町の区域全域に、山口市阿東地域の一部を加えた地域である。大陸縁辺部における様々な様式の火成活動が生み出した地形と特有の生態系が広がっている。地形・地質、生態系のみならずそれに育まれた歴史・文化といったジオパーク資源の多様性に富んだ地域であると同時に、住民活動が非常に活発であり、ガイド活動や教育活動を中心に市民活動が全域で組織的に展開されている。

しかしながら、萩まちじゅう博物館構想とジオパーク構想とのお互いの位置づけが明確でなく、ジオパーク運営に向けた組織体制の整備に課題が残されている。また学術的支援をする人材や研究者が乏しく、ジオパーク構想を推進する上での学術面に不安がある。以上により日本ジオパークの認定については見送りとする。

以上